

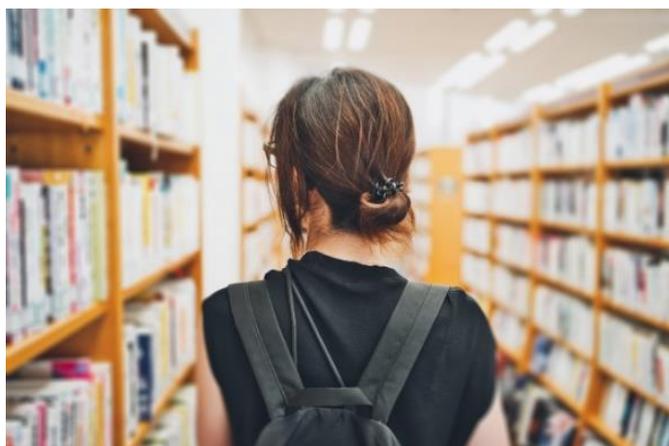
司書講習と学校司書養成講座の修了後の歩み

公立中学校の学校司書 Nさん 30代 女性

2020年度 **司書講習** 修了（受講期間 2021年1月～3月）

2021年4月から公立中学校の学校図書館勤務を開始

同年の秋、働きながら **学校司書養成講座** の秋学期科目を受講



・学校司書養成講座を受講して自分の中に変化が

司書の資格を取得し、学校司書として働き始めましたが、最初の半年は新しい事ばかりで、右も左もわかりませんでした。司書資格は保持しているものの、学校司書で必要な知識が全くなく、手探り状態で、近くの学校司書の方に話を聞いてみるなど、自分なりに模索しながら業務を進めていました。

しかしそれにも限界を感じ「学校司書養成講座」の秋学期科目を受講することにしました。受講後は、学校図書館や学校司書に関する法律や制度、実践的な演習を学んだことで、自分の中に変化が出てきました。

中学校の先生は、文科省が定めた教科書の進め方に沿って授業をしています。学校図書館で大切なことは、「授業の流れのタイミングで、学習内容に合った資料や図書を準備すること」です。そのようなことも講座の中で学ぶことができ、理解が深まりました。

受講前は、自分の考えで「これが良いだろう」と準備していたのですが、それが適切でなかったと気付いたのです。これは司書資格を取得しただけではわからないことでした。

また「学校図書館制度・経営論」や「学校教育概論」の学習からは、法律や制度に基づき学習指導要領に合った図書を選ぶよう、自分の中で基準を見いだすことが出来ました。



・周りの反応にも変化が起き始めて

その後は、ベテランの司書教諭の先生に「Nさんは今までの司書の中で、調べ学習のための一番良い準備をしてくれた人です！」と褒めていただけるようにもなりました。

「情報サービス演習（補遺）」の授業で「パスファインダーを作った方がいい」と教わったことも役に立ちました。生徒たちが短い時間で調べ学習を進めることが出来ましたし、司書歴の長い先輩はパスファインダーについてご存知なかったのが、最新知識を身に付けたことを評価して下さいました。

・司書講習の受講経験は自分の強みに

司書講習を受講する前は、図書館業務についての情報は、近隣地区などの限られた狭い範囲のものからしか入手していなかったのですが、司書講習を受講したことで、全国の図書館を知る機会に触れ、多種多様な地域性を活かした独自の運営や業務を知ることができました。

そのお陰で、学校司書になりたて当初から、広い視野で考えることが身についていたことは、私の強みになっています。講習で学んだことは今でも参考になっています。



・学校司書は一人職場、修了生同士は良き仲間

学校図書館の司書は、大概は一人職場なので、誰かから教えてもらえる環境でない場合が多いです。その分、講座から教えてもらっていたことが多くあったなと実感することが多々あります。

また、修了生同士がかけがえのない大切な仲間だということ！

受講が終了してからも連絡を取りあい、お話しができることは気晴らしにもなります。

時には相談相手になってもらって、お互い切磋琢磨し励みになっています。



・学校司書になって感じたこと

公立図書館の司書として働くにも、小中学校に調べ学習の支援をすることがあるので、例えば学校配送の担当者になった場合など、学校司書養成講座の知識は役立つと思います。

司書講習で得た知識だけでは、学校図書館のことはわかりません。



・学校司書のやりがい

図書館にガスストーブがあるのですが、生徒の中には見たことがない子も多く、つけ方を教わると自分から操作してみたり、それがきっかけで恋の悩みなどを打ち明けてくれる子もいます。

日々、生徒たちの変化を見ていると、成長に関わる仕事をしているんだなと感じます。

教室ではなく、図書館でしか見せない顔があって、先生とは違う関わり合いの中で成長が見られるのが一番のやりがいです。



・いつも明るく前を見て

学校司書として4年目に突入したNさん、周りから信頼され、自分らしくいきいきと仕事をしている姿がとても素敵でした。

※写真は全てイメージです。御本人や職場とは一切関係がありません。